

＊ ＊ 私たちの住む金田村の記憶 ＊ ＊ (2022. 4)

2 金田村国民学校 戦中、戦後の教育 ・ 地域 < その1 >

(1) 分散教育 (学年は当時の学年です)

＊ <1・2年生>

1年生は入野の福田寺が教室になった。福田寺の教室は、畳があげられ、ささくれ立った板の間に座布団を敷き、長机での授業だった。先生はご本尊を背にして皆に向かい授業が進められた。自習ばかりではなく勉強を教わった。

福田寺の縁の下の土には洪水の跡が残り、土砂が層をなし積もっていた。乾燥し、固まった土をかき出し白墨がわりにして遊んだ。

八坂神社の教室は、学校の校舎ではなかったのに、気が緩んでいた。いたずらをして先生からよく怒られていた。

＊ <3・4年生>

3年生は熊野神社。4年生は八坂神社だった。八坂神社の神楽殿は雨戸一枚、激しい雨の日は、吹き込まれ、縁にいる児童は濡れてしまう。すぐ脇の本殿に移動して、一応勉強した。いや、勉強はあまりしなかったな。

校庭に集められ、先生から話があり、戦災農家への勤労奉仕にでた。畑の草むしりが主な作業だった。

＊ <5・6年生>

昭和20年：5年生、吉祥院 21年：6年生、日枝神社（寺田縄）
教室には男女が入り、他の学年と一緒にすることはなかった。

(2) 教科書

＊ <1・2年生>

1年生に入学し、4月から7月の焼けるまでは、旧校舎に通学した。

入学後、教科書は上級生の使い古しを使った。でも、2年生の数が1年生より少なかったため、全員に行き渡らなかった。そこで教科書を書き写させて貰って使った。父親が絵や文字まで上手に書写したので、担任の先生から褒められた。

不足する科書は2年生から借りることになっていたけれど、2年生は1年生より人数が少ないうえ、早い者勝ちのような状態で、手に入れられなかった。無くては不自由なので、教科書の挿絵や文字を親に書写してもらい、先生に褒められた。

戦後、教科書が、わら半紙ぐらいの大きさの紙の刷り物で配られ、自分で切り取り、製本して使ったこともあった。

黒墨塗りの教科書は使った記憶がない。

教科書は今と違って、わら半紙のペラペラ。1年生にしては細かい文字で書かれていて読みにくかった。

* <3・4年生>

1年生の教科書は「サイタ、サイタ、サクラガサイタ」だった。2年生のときは、昭和19年に教科書は「あったのか、なかったのか」ということだった。1年生は、カタカナ、2年生で平がなになった。

謄写版刷りで基礎的な内容だったと思う。自習も多かった。黒ずみ塗の教科書は、はっきりわからない。

しっかり勉強するということはなかったように思う。教科書が謄写版刷りで、ワラ半紙10枚ぐらいの薄っぺら。悪い紙で真白でなく表面はざらざら。謄写印刷の文字がはっきりしないところも多かった。

黒ずみの教科書は使わなかった。

* <5・6年生>

新聞紙のざら紙のようで、製本されてなく、切り出しで切裂いて、簡単な冊子にして使った。焼けて不足する教科書は、校長先生の関係で国府の国民学校から古い本がきた。

黒墨塗りの教科書は使った覚えがない。教科書の回収も覚えがない。家が焼けてしまったので教科書もなくなった。

新しい教科書を「稲本本屋」へ自転車で買いに行った。新しい教科書を見るのは楽しみだった。

| | |-----| | (3) | |-----| 授 業

* <1・2年生>

勉強は、国語・算数・習字・担任が女の先生だったので音楽も習った。図工もあった。図画はクレヨンを使ったが、あまり色が出なかった。工作は材料が不足し十分ではなかった。体育はあまり広くないお寺の空地でドッチボールなどだった。ドッチボールは男の子の遊びにもなり、野球はもっと後になって3年生ぐらいからの遊びだった。女の子は縄跳びなどで遊んでいた。

国語、算数、習字も習った。体育はドッチボールぐらいだった。習字の時間に緊張感なく、ほかの人の頭に筆でいたずら書きをしたりした。半紙はなく、新聞紙を使ったが、真っ黒になるくらい書かされた。書き重ねるので、どんな字が書けたかが分からなかった。紙は貴重品だった。

紙が悪く、作文を書いて消しゴムを使うと擦り切れて穴になってしまう。読めない文章になってしまい、先生に注意された。

* <3・4年生>

体操の時間、ほとんど、男は剣道、女は薙刀。棒をもってやった。いよいよ戦争の終わりのころ、竹やりを持ち、突く練習をした。竹やりが武器だった。

学校には、銃が置かれ訓練といって、1年生から6年生まで校舎の屋根に登り、ガタガタやりながら屋根に乗っていた。何の練習だか分からない。山に登っていたつもりなのか、敵機を銃で撃ち落とす訓練だったのか……。分からない。

職員室への入口には薙刀が並べられて整理されていた。銃は格納されていた。刀はなかった。

手りゅう弾は校庭を使い投げる訓練をした。何秒までに投げろと云われ、雷管を抜き南側に向けて投げた。

先生はいたけれど、勉強らしいことはほとんどしなかった。暑い時、男たちは勉強しないで「豊田堰」や「寺田縄の排水路」で泳いだ。先生は後で迎えにくることもあった。

寺田縄の大排水で泳ぎ、学年が進むと豊田堰などでよく泳いだ。トラホームが流行れば、同じ川で泳いでいるので、皆罹ってしまう。誰も病気とも思っていなかった。いつの間にか治ってしまった。

* <5・6年生>

戦前、3年生ぐらいから軍事教練があった。毎日、脚絆を付け手旗信号の練習をやった。覚えないと先生からビンタをもらった。

今みたいに自由はなく、先生にも絶対服従で、「君たちはお国があるから生きていける。お国のために尽くしなさい」と強く教育されていた。天皇陛下は現人神だった。手旗の覚えが悪く叱られていた。

遠足の時、湘南平で手旗信号の練習をした。軍服にサーベルを付けた先生がやけに怖く、サーベルを振り回しながら怒鳴りつけられた。下手だと一人だけでなく、全員が縦ビンタをくらった。

(4) 学校での生活

* <1・2年生>

登校： 校舎が焼ける前、登校班を組んで登校した。高等科の最上級生が先頭に立って、学校に入る。校門には襷をかけた週番が立ち、その前で整列し、寺田縄〇〇班。総員〇〇名。と軍隊方式で報告し、校門をくぐった。報告が終わるまで列を乱すこともなかった。遅刻すれば、一年生でも、唯一人、週番の前でその理由を述べて校門を通してもらった。怖い週番だった。

夏、田圃の中を突っ切って登校した。手ぬぐいもなかったので汚れた足を洗わず校舎に入り、先生に叱られた。体育は勿論裸足。終わって校舎に入るときは、校舎脇の洗い場で足を洗って教室に入った。

昼食： 学校のお昼は弁当をもってくる者もいたが、大部分の児童は家に食べに帰

った。

金田はコメ所でも新米は売りに出す。家では古米やくず米を食べた。ご飯に麦、イモを混ぜることも多かった。

お腹がすいて我慢が出来ないことは少なく、食が偏り栄養的には落ちていたと思う。お肉を食べることは少なく、豚を屠殺に出すと、僅かでも豚肉が戻された。それはそれは、ごちそうだった。

昆布の佃煮、梅干しが主なおかずで、麦ごはんだった。麦が多いとまずいので親に文句を言って叱られた。皆が同じような弁当だったので恥ずかしいと思ったことはなかった。

食事前： いつも両手で箸を合わせ「箸取らば天地御代（あめつちみよ）の御恵、君と親との御恩味わい、いただきます」と唱えてからいただきました。

運動会など： 学校の運動会は午前中が児童、午後には大人の運動会、と一日中、金田村挙げての運動会だったこともある。

盆踊りも盛大だった。まつりの時、地域によっては芸人を呼ばず、自分たちが役者になり演ずる村芝居をやっていた所もある。

学校が地域活動の拠点となっていたように思われる。印刷物を作り、青年団の活動なども学校を中心として活動した。

行事： 大磯の先にあった女学校が会場になり、合唱コンクール（音楽会）があった。1年生が参加し、大磯まで歩いて行った。先生は歩き通した児童を気遣って、「森永キャラメル」を一つずつ配ってくれた。おいしかった。

合唱の伴奏はピアノ、普段、学校ではオルガンで練習してきたので、先生は弾きにくそうだった。

行事で外に出る時はいつも歩きだった。どこに行くにも歩いて行った。映画会、大磯の音楽会、プール、遠足など、みなが列を作って出かけた。歩くスピードが違い、列の後ろは先頭との距離が出来て、せかされながら歩いたのも思い出だ。

生活指導： 当時は先生も親もおっかなかった。先生から二度叱られたことを覚えている。上級生たちと神輿を造ろうとして材料集めをした。木端はあっても釘がない。当時、学校の建設が進められ校庭が製材所になっていた。

作業場から何人かで釘を失敬したところ、小遣さんに見つかり学校に報告された。あくる日、朝いちばん、教室で皆の前に呼び出され、ピンタをもらった。5・6人だったと思う。痛かった。女先生の冷たい手でたたかれた。

今一度は、上級生と豊田の祭りを見に出かける途中、雑貨屋さんのガラス戸に手を入れ「ニッキ」を拝借した。見つかり、その場に物は捨て鈴川の土手に逃げた。明くる朝、こっぴどく叱られた。

当時は、今と違って、先生も親も本当におっかなかった。悪いことはできなかった。

< 以 上 >